

よつば小学校をつくろうプロジェクト

夢ある新しい学校を創造するワークショップ

記録 テーマ **A**

テーマ	『新しい学校の新しい日課』
問 い	6 学年のみんなが一緒に下校するための工夫は？
説 明	授業時間数の違いを乗り越えるには、時間割の工夫と活動内容の調整が不可欠です。特に、スクールバスの効率運行が教育活動全体に影響するため、柔軟かつ創造的な日課づくりをします。また、保護者や教職員の負担がないようにします。
参加者からの疑問や提起された課題や問題	
・ 現状の再編4小学校の日課で進めていくのであれば、低学年の下校の安全は確保できるのか。 ・ スクールバスをピストンで行うのであれば、学校で待機する児童の過ごし方を考える必要がある。 ・ 朝の教員の勤務時間外の時間帯を、誰が責任をもって見守るのか。 ・ 帰りの会以降の低学年の見守りを、誰が責任をもって見守るのか。 ・ スクールバスをピストンする際に、ただ待たせるだけでは子どもがかわいそうである。 ・ 通学団の概念や組織形態はどうなるのか。 ・ 世の中の現状を考えると、学校の先生以外に持続可能的に子どもたちを見守る人の確保は難しいのではないかと。	
課題の解決や夢の実現に向けた、参加者からの意見やアイデア	
・ 低学年と高学年の日課をそれぞれ別に作り、朝はスクールバスの第1便に高学年を乗せ、高学年は先に授業を進める。スクールバスの第2便で低学年を乗せて下校時刻をそろえてはどうか。 ・ 下校時刻を全学年そろえると、安全で安心である。 ・ 下校後、兄弟姉妹で習い事を通いたい場合、下校時刻が全学年そろった日課だとありがたい。 ・ 朝の日課のスタートをもっと遅くして、ゆとりをもって登校できるようにしてはどうか。 ・ 再編4小学校の日課のよいところ取りをしてほしい。 ・ 大きな日課の変更は、子どもたちにとっても保護者にとっても負担が大きいため、現行通りでよいのではないかと。 ・ よつば小学校が大きな日課変更をするのなら、前年度から4小学校で試行をしていけるとよい。 ・ 多くの保護者は共働きしているため、放課後も長い時間預かってほしいというニーズは多いため、よつば小学校の日課をそろえて下校後、地域人材を活用して学校の中で習い事のような〇〇教室もできるようにすることで、下校時の待ち時間や下校後の子どもたちの時間を有効活用してほしい。 → 徒歩通学の児童も利用できるようにするが、下校は保護者の迎えを原則とする。 ・ 下校後のスクールバスの待ち時間を、小学生同士での縦割り活動のような学年を越えた交流をしてほしい。 ・ 学校の教員では限界があるため、学校の日課を超える範囲では、教員以外の方の力が必要である。 → 保護者の力、地域の力の善意もありがたいが、善意に頼るだけでは限界があるため、市が予算立てをきちとした上での支援員のような正式な立場の人を置いてほしい。 → 保護者・地域の方の善意に対する苦情や無理な要求等も考えられるため、市が責任をもって放課後も運営できる児童クラブや児童クラブに準じた地域とともに開かれた運営組織を構築してほしい。 → 児童クラブと連携した組織で、地域人材活用をして、学校では教えてもらえないような体験等ができるようにしてほしい。	

- やとみ放課後アカデミーの小学生版を設定してもよいのではないか。
- 放課後教室を行うのであれば、保護者の同意も必要である。保護者として、どのような人が子どもと関わっているのか、しっかりと把握した上で利用判断の有無をしたい。
- 今の世の中の流れの雰囲気では、地域男性が女兒とふれあうことで、意としないところで変に誤解を生じられるような難しい時代だから、男性は協力するのに壁を感じることもある。
- ・ 今後、中学校の部活動も縮小傾向のため、下校後、中学生や愛知黎明高校生等のボランティアを募り、小学生と交流する場を設定してもいいのではないか。
- ・ 高学年における自転車での登下校はどうか。
- ・ 地域の方と関われるような日課も魅力がある。

今後、検討を要することから

- ① 学校日課外の時間帯を見据えた上での、柔軟な学校日課の構築が必要。
- ② スクールバス登下校における、子どもの待ち時間の過ごし方や見守りをどうするか。
- ③ 下校方法の多様化に合わせた子どもの下校体制、放課後の居場所づくりをどうするか。
- ④ 学校を支える地域人材等の確保と、それに係る市の予算編成と組織体系の構築。

よつば小学校をつくろうプロジェクト

夢ある新しい学校を創造するワークショップ

記録

テーマ

B

テーマ	『地域のみなさんが参加しやすい、したくなる運動会などの行事』
問	い地域に支えられ、応援される学校行事をつくるためには？
説	明よつば小学校の校区は広大となります。学校を核にして地域が一つにまとまっていったほしいものです。より多くの地域の方々に支えられ応援される運動会などの行事の実施時期や曜日、その方法について願いを出し合ひましょう。
参加者からの疑問や提起された課題や問題	
(1) 4つの地域がつながるためのイベントにするためには。 (2) 4つの地域をひとつにするためには。 (3) 児童にとって楽しいイベントにするには。 (4) 大イベントとして行う方がいい。 (5) 大イベントとなれば、駐車場の確保ができるのか？	
課題の解決や夢の実現に向けた、参加者からの意見やアイデア	
(1) 学校だけでなく地域の人たちが連携し、コミュニケーションをとり、様々なことを進めていく中で繋がっていくことができるので、一堂に会することができるイベントは大事にすべき。 (2) 普段接することのない4つの地域がひとつになるので、交流の機会を沢山もつことがよい。 (3) 子どもの頃に楽しかった思い出等がたくさんあれば、大きくなっても忘れない。故郷を思う気持ちや愛着を持ち故郷から離れないだろう。だから、大変でも子どもたちの心に残るものを行う方がいい。子どもの心に残れば、保護者の心にも残るはずだ。 (4) 大変なことをしないと忘れてしまう。思い出に残らない。魅力がないので、短時間で簡素化したイベントではなく、大イベントをすればいい。(大運動会・もちつき大会) コロナでいろいろなものが縮小され、元に戻す事が難しくなっているが、今一度子どもたちや大人が喜ぶようなものを考えればいい。(目的がシンプルなもの) (5) イベントが土日開催であれば、近隣の施設や企業等の駐車場が利用できる所以、調整をする必要がある。 ★ 昔は地域や保護者や先生がみんな一緒になっていろいろなことをした。それが、そうすることが当たり前だった。でも今は、当たり前が通らない時代であるため、昔のよいところを今の時代に合わせた形に行きたい。 ★ 今、ニュース等では昔の伝統的な行事(地域での花火大会・郡上踊り)がクローズアップされ、そのよさが見直されているように、コロナ以降、人々の心には日本人としての心が欲しているように感じる。今こそ、古き良き時代のあの頃の弥富に戻って地域の強化、地域連携をしよう。	
今後、検討を要することから	
・ イベントが土日開催であれば、近隣の施設や企業等の駐車場が利用できる所以、調整をする必要がある。	

よつば小学校をつくろうプロジェクト

夢ある新しい学校を創造するワークショップ

記録

テーマ

C

テーマ	『地域 みんなが立ち会う学び舎づくり』
問い	新しい学び舎づくりに子どもや地域の方が参画するためのアイデアは？
説明	新しい学校をつくっていく過程で、「私たちの学校」という愛着や開校への期待を高めるために、子どもや地域の方が参画できる場面や方法はないでしょうか。
参加者からの疑問や提起された課題や問題	
① 給食時間が楽しくなるようにしたい。 ② 世代を超えた地域とのコミュニケーションを十分に図ることのできる取組を図りたい。 ③ 遊具がたくさん欲しい ④ その他	
課題の解決や夢の実現に向けた、参加者からの意見やアイデア	
① 給食時間が楽しくなるように - これまでどおり、学校で給食を作ってほしい。 - みんなで給食の新メニューを考えられる機会を設けたい。 - 学校の好きなところで食べる機会や、学年を超えてみんなで食べる機会があるとよい。 - 地域の人が給食を食べられる機会を増やすことで、子どもの様子も分かる。 - 給食の一般開放があれば、地域の方とのつながりも増える。 ② 世代を超えた取り組みにより地域とのコミュニケーション - バスの待ち時間などに、地域の方に昔の遊びを教えてもらう。 - 夏休みなどに各教室を利用し、学校祭などの地域に開かれたイベントを行う。 ③ 統合した学校の子とコミュニケーションが取れる機会を - コミュニケーションが取れる部屋を作り、各校の歴史が感じられるものを展示する。 - 落書きができる壁を作る。卒業生が書き足していくことで思い出が残る。 ④ 遊具がたくさん欲しい - 成長発達に関わるため、豊富な遊具が欲しい。 - 金属だと夏は熱くなるため、金属ではない素材がよい。 ⑤ その他 - フォトスポット（入学式や卒業式の記念写真）が欲しい。 - 更衣室のセキュリティー。外に人が近づいたら分かるようなもの。入口についたてを。 - 草が生えない校庭 - 伊勢湾台風の碑（栄南小）をよつば小に移設してほしい。	
今後、検討を要すること	
① 給食の運用 ② 地域との交流機会 ③ 統合した学校の子とのコミュニケーション ④ 遊具の設置 ⑤ 更衣室のセキュリティー	

よつば小学校をつくろうプロジェクト

夢ある新しい学校を創造するワークショップ

記録

テーマ

D

テーマ	『未来に持続可能な登下校の見守り体制』
問 い	広大な学区の登下校時の見守り体制をどうつくるか？
説 明	現在でも4小学校においては、「見守り隊」「スクールガード」などの皆さまが、児童の登下校の見守り活動をしてくださっています。よつば小学校の開校にあたり、児童の安全な登下校のための持続可能な活動を再整備するにはどうすればよいでしょうか。
参加者からの疑問や提起された課題や問題	
・ 保護者がバス停や集合場所で見守るのが理想と思われるが、時間のない親が多いと思われるので、今までのようにスクールガードの見守りがあってほしい。ただ、スクールガードをしてくださっている方々の高齢化等に伴い、人材不足が生じていることが問題。 ・ 見守り体制の構築としては、バス停の位置の見直しも兼ねて、毎年見守り体制を見直すことが理想であるし、そのためのルール作りをすべき。	
課題の解決や夢の実現に向けた、参加者からの意見やアイデア	
① 人材不足に対して ・ 高齢者やパート勤務の方々に、少しでもやりがいや楽しみをもってもらうため、報酬もしくは市内で使用できるクーポン（金券）や、喫茶店の利用券などを、お礼として配布してはどうだろうか。 ・ 保護者がバス停に、朝に付き添って集まり、またお迎えでも集まることで、お互い情報交換ができる上に近所の方々と顔見知りになれる。そのために、天気の悪い時など雨宿りができる屋根や、時間確認のために時計があるとよい。 ・ 人手不足の手助けとして、各所に防犯カメラを設置するとよいのでは。 ・ 子どもはタブレット、親はスマホで位置情報が確認できるとよい。 ・ バス停を増やし、小刻みに配置することで、幼稚園バスのように数人の子どもが集まるようにすれば、親も同行するようになるのでは。バス停が増えれば歩く距離も短縮され、熱中症対策にもなるのでは。 ・ バス停ではなく、各戸送迎にすれば、見守り自体が不要になる。保護者が外で待機してもらえば更によりよい。 ・ 同報無線で全域に下校時間を知らせると、地域の人が見守ってくれるのでは。 ② 見守り体制の構築について ・ よつば小学校として全体の基本ルールを決め、詳細については各4学校区それぞれ地域事情があると思われるので、それぞれのルールで見守りの方法、体制を決める。 ・ バス停周辺の通行量が少ないところを選べば、見守りも楽になるのでは。 ・ 以前の十四山保育所が実施していたノウハウ（場所の選定方法、屋根があるバス停）が良かったイメージがある。これを参考にしよう。	
今後、検討を要することがら	
① 人材不足を解消するためにはどうすべきか。スクールガードや保護者等の確保をどうするか。また、マンパワーに頼らない見守り方法の選択の検討。 ② 見守り体制のルール決めをする。よつば小学校の基本ルールと4小学校区ごとの詳細なルールを決めること。	

よつば小学校をつくろうプロジェクト

夢ある新しい学校を創造するワークショップ

記録

テーマ

E

テーマ	『よつば小学校だからできるこんな学び、あんな学び』
問	い 地域の特色や魅力あふれる教育活動をつくるには？
説	明 地域の魅力ある人材や教材を活用する教育活動を行うことで、「地域とともにある学校」を目指したいものです。また、校内における地域人材による見守り体制や創造的で活気があり、ボランティアな活動組織を生み出すことができないでしょうか。
参加者からの疑問や提起された課題や問題	
① 地域がら米作りや畑づくり（果物・野菜）が盛んだが、その大切さを児童に教える必要がある。 ② 「よつば小学校」に通わせたい学校づくりを大人もしっかりとかかわって取り組まないと、もっと今後子どもの数も減って、また、再編をしなければいけない事態となる。 ③ 伊勢湾台風が過去にあり、語り部によって災害の怖さ備えを伝承していくことがとても大事と考える。 ④ 地域の方たちとの連携の必要。	
課題の解決や夢の実現に向けた、参加者からの意見やアイデア	
① 米作りや畑づくり（果物・野菜）→販売まで経験させたい。マーケティング・プランニングまで学ぶことで生きる力が養われる 販売する場所としては、例として名古屋競馬場はどうか。栄南小学校の児童は、身近に感じるだろうが、他の地域の児童は名古屋競馬場のことはあまりわからない。そういった場所で販売を経験させたり、そこで働く人たちの姿を見たりすることは、よい経験になる。 ② 「よつば小学校」に通わせたい学校づくり→調整区域でも居住特区にすれば、人口増が見込める。 ③ 伊勢湾台風が過去にあり、語り部によって災害の怖さ備えを伝承していくことがとても大事と考える。→防災学習や防災キャンプで実際に宿泊し、炊き出しも行うことによって、命の大切さ、ボランティア活動の大事さ等を学び実際に体験することで、よりもしもの備えができるようになる。 ④ 地域の方たちとの連携の必要→地域の人材を生かして〇〇教室のようなことを朝や帰りの時間を利用して、登下校の児童に教えてもらうことで、地域との連携になる。	
今後、検討を要することから	
よつば小学校の近隣の方は参加できるが、栄南学区や大藤学区の高齢者の方たちは、足が不自由とかわざわざ行くのが面倒とかといった理由で参加は難しいかもしれない。	